

「幼児期から小学校低学年の親子のメディア活用調査」(2021年1月実施)より

## 子どもの主体性を育み、 世界を広げるデジタルメディアの使い方

情報社会の進展に伴い、子どもたちの暮らしにもさまざまなデジタルメディアが入ってきています。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、オンラインでの学びや遊びの機会が増えました。そうした中、幼児期の子どもたちのよりよいデジタルメディアの活用方法や、成長の可能性が広がるような支援のあり方について、本調査の内容をご監修いただいた菅原ますみ先生にお話をうかがいました。

\*本記事は2021年10月に取材しました。

### 菅原ますみ先生 (すがわら・ますみ)

白百合女子大学教授・お茶の水女子大学名誉教授。専門は発達心理学、パーソナリティ心理学、発達精神病理学。国立精神・神経センター精神保健研究所 社会精神保健部 家族・地域研究室長、日本パーソナリティ心理学会理事を歴任。著書に『その叱り方、問題です!』(主婦の友社)など。



### 子どもの好奇心を刺激し、 感情を動かすツール

スマートフォンやタブレット端末などのデジタルメディアは、近年、急速に各家庭に広がっています。日本国内でスマートフォンが本格的に販売されるようになって10年余りが経ちましたが、特に20～30代の若年層世帯では固定電話離れが進み、スマートフォンの利用があたり前になっています。そうした状況を受けて、幼児期の子どもたちにもデジタルメディアがより身近なものになっていることが、今回の調査結果から明らかになりました。

今、私たちがめざすべき社会のあり方として、超スマート社会(Society 5.0)が提唱されています。超スマート社会とは、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く新しい社会像です。超スマート社会に生きる人々には、さまざまなデジタルメディアを主体的に使いこなす力が求められます。今後、科学技術がさらに発展していくこと

によって、幼児期の子どもたちにとって、デジタルメディアの存在はますます大きなものとなっていくはずですが、とはいえ、従来のテレビ番組や紙の絵本・本の使用率は依然として高く、デジタルメディアはそうしたものに加わった、新しいツールということができます。

ツールとしてのデジタルメディアの普及が進んでも、幼児期の子どもたちにとって大切なことは、これからも何ら変わるものではありません。例えば、今回の調査では、子どもたちがデジタルメディアを使ってどのようなことをしているかを調べています(図1)。動画視聴や写真撮影、ひらがなや数遊び、ぬり絵など、子どもたちが好きな活動は、これまでもテレビやカメラ、紙の絵本などを通して子どもたちが慣れ親しんできたものと質的には変わりません。ただ、デジタルメディアで視聴できる動画は、ビデオやテレビよりもはるかに多様なため、子どもたちは自分の好きな生き物、アニメ、人物、イベントなどを自由に探して楽しむことができます。また、写真や動画は自分で撮影して鑑賞する楽しみもあり、小さな子どもにとって新し

## 「幼児期から小学校低学年の親子のメディア活用調査」調査概要

〈2021年調査〉2021年1月

**調査対象** 全国の年少児（3歳児）～小学3年生の第一子をもつ母親 3,096人（各516人×6学年）

**調査項目** 子どものメディア視聴・使用状況、アプリ・ソフトの使用状況、親子で決めているメディア使用のルール、デジタルメディアの活用に対する保護者の意識など

〈2017年調査〉2017年3月（対象地域が異なるため参考値として一部掲載）

**調査対象** 首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）の4～6歳（就学前）の第一子をもつ母親 1,467人

### データ解説・本調査の担当

ベネッセ教育総合研究所 学び・生活研究室 主任研究員  
**持田聖子** もちだ・せいこ

生活者としての視点で、人が家族をもち、役割が増えていく中での意識・生活の姿容と環境による影響について調査・研究を行っている。近年の主な調査は、「幼児期の家庭教育国際調査（2016～2017）」、「幼児・小学生の生活に対する新型コロナウイルス感染症の影響調査-論文：チャイルドサイエンス Vol.20(2020), EECERJ(17 Jan., 2021)」など。専門社会調査士。



調査の内容を  
詳しく知りたい方は  
こちらから！

ベネッセ教育総合研究所ウェブサイト  
「幼児期から小学校低学年の親子のメディア活用調査-2021年1月実施-」  
<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=5657>



い創作活動であるともいえます。

デジタルメディアの機能が発達し、家庭や園に今以上に普及しても、テレビや絵本がなくなることはないでしょう。子どもたちの知的好奇心を刺激し、感情を動かすツールが多様化した状態だと捉えることができるでしょう。むしろ、デジタルメディアを使いこなすことで、子どもたちは自分の興味・関心に合ったものを自ら発見し、保護者や保育者に「こんなものを見つけたよ!」と紹介したりするなど、主体性を発揮しながら世界を広げられるようになっていくと思います。

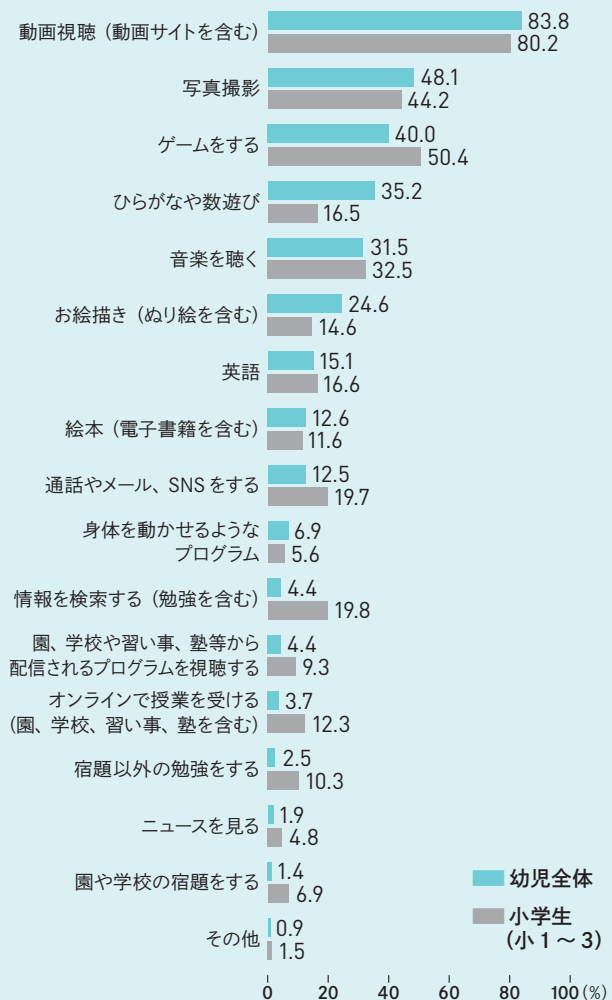
## デジタルメディアを介したかわり 子どもの思考を深める

子どもたちが主体性を発揮しながら世界を広げていくためのツールとして、デジタルメディアを活用していく際には、大人のかかわり方が重要になります。

幼児期の子どもにとって、大好きな保護者や保育者と一緒に過ごす時間は、それが何をしているときでも大切な時間です。家庭でデジタルメディアを使うときも、保護者と一緒に使った方が、子どもたちにとっては楽しいはず。今回の調査結果からも、特に幼児期においては、保護者はできるだけ子どもと一緒にデジタルメディアを使おうとしている様子がうかがえます（P.18 図2）。

とはいえ、常に一緒に使うことは難しく、家事などで手が離せないときに、子どもに与えておく

### 図1 デジタルメディアを使った活動



※複数回答 ※項目名とその値は、幼児全体の値の降順で表示

**データ解説** ● デジタルメディアを使った活動として多いのは「動画視聴（動画サイトを含む）」「写真撮影」「ゲームをする」で、全体的に、娯楽や遊びの要素が強い活動の比率が高い。しかし、小学生になると、「情報を検索する（勉強を含む）」「通話やメール、SNSをする」といった、学習やコミュニケーションの側面をもつ活動の比率が高くなる。

ケースがあるのも現実でしょう(図3)。そのため、保護者の中には「子ども1人でデジタルメディアを使わせてよいのだろうか」と不安や後ろめたさを感じている人もいるかもしれません。

子どもにふさわしいコンテンツを選び、睡眠時

間や、人とかかわる時間が少なくならないように時間管理をした上で、子どもが1人でデジタルメディアを活用することは、決して悪いことではありません。むしろ、1人で集中できるようになったことは、子どもの成長の表れとして前向きに捉えましょう。

その上で、子どもと一緒にデジタルメディアを使う時間は、教育的チャンスとして積極的に生かしてほしいと思います。もっとも簡単で大切なことは、一緒にデジタルメディアを使いながら、子どもに質問してあげることです。

例えば、子どもとアニメ動画を見ているときなら、「主人公のAちゃんはどうして〇〇したんだろうね」「あのあとAちゃんはどこに行ったんだろうね」などと、物語をより深く解釈できるような質問をするとよいでしょう。そうした問いかけによって、子どもは頭の中で動画のストーリーを振り返り、考えをめぐらせることができます。

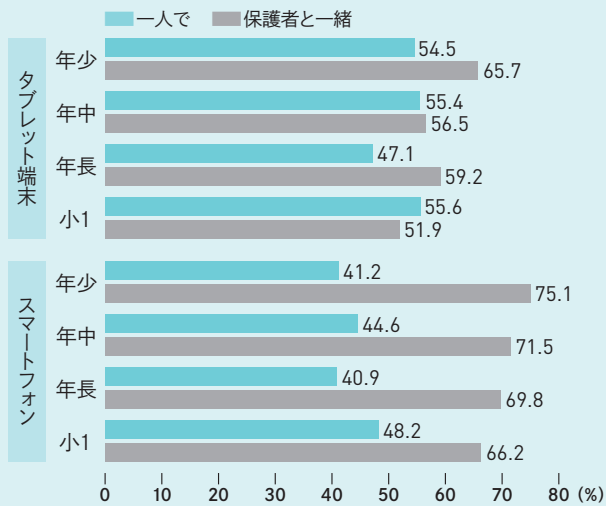
もちろん、ときには突飛な答えが返ってくることもあるでしょうが、「それはおかしいよ」「そうじゃなくてこうだよ」などと子どもの意見を否定せず、子どもの発想を受け入れて話を促すことが、子どもの豊かな言語発達へとつながっていきます。

子どもが1人で没頭しているときは子どもに時間を委ねてその様子を見守り、子どもが十分に楽しんだ後に経験を振り返るような質問をして、子どもの思考を深めていく。そうしたかかわりは、実は保育者が園の遊びの中で自然にやっていることです。保育者が子どもとかわる上で大切にしていることを保護者に紹介し、「絵本でも、動画でも、子どもにとって大切なことは変わりませんよ」と伝えることで、デジタルメディアを介した保護者と子どものかかわりは、よりよいものになっていくと思います。

## 実験を通した学びを子どもたちに与える

デジタルメディアを使った活動の中で、子どもたちの大好きな写真や動画の撮影は、その子が何に興味を抱いているかを知るとてもよい材料にな

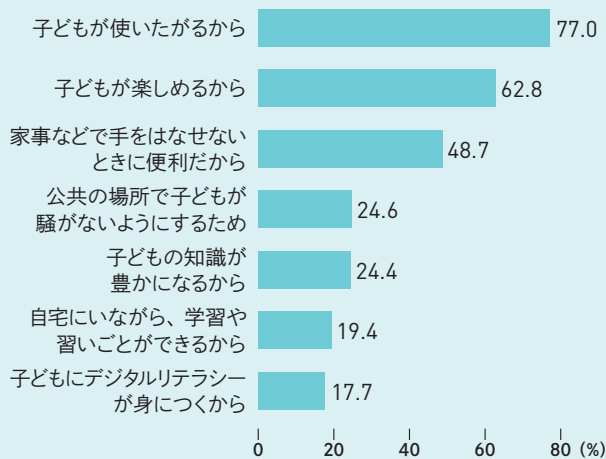
図2 デジタルメディアをだれと一緒に使っているか(年少～小学1年生)



※ 複数回答 ※ 各デジタルメディアを使用している人のみ回答  
 ※ 「一人で」「きょうだいと一緒に」「保護者と一緒」「友だちと一緒に」「先生と一緒に」「その他」のうち、「一人で」「保護者と一緒」の回答%

データ解説 ● 子ども1人でデジタルメディアを使用する比率は、年齢が上がるにつれておおむね増加する。「タブレット端末」の場合、就学前は子ども単独よりも保護者と使用する割合の方が高いが、小学生になると逆転する。

図3 デジタルメディアの使用理由(幼児)



※ 複数回答  
 ※ タブレット端末、スマートフォン、パソコンのいずれかを使用している人のみ回答  
 ※ 幼児の上位7項目を掲載

データ解説 ● デジタルメディアの使用理由として、「子どもが使いたがるから」など、子どもの意向を重視した内容が上位に挙がっている。

ります。私は、写真や動画は心の目が捉えた風景を映し出すものだと思います。子どもが何を撮影したがるのか、どんなときに撮影したいと思うのかを理解することは、子どもの心を理解することにつながります。

写真や動画を通じて、子どもが「美しい」「かっこいい」「大切だ」と思うものをダイレクトに理解できることは、私たち大人にとって非常に価値のあることではないでしょうか。

写真や動画の撮影のよいところは、表現方法としての巧拙があまり問われないことです。造形やお絵描きに対して苦手意識をもっている子どもでも、スマートフォンを使った撮影には抵抗感なく取り組むものです。撮影した写真を印刷して、紙に貼って絵や言葉を書き込めば、子どもにとっては撮影を起点とした創作体験になります。

幼児期の子どもたちには、実体験を通した学びが重要です。デジタルメディアの中で目にするのはリアルではありませんが、それを実体験に結びつけることは、保育者や保護者のかかわりによって十分に可能です。昆虫の動画を見たら、園庭に出て昆虫を探し、撮影してみる。みんなが撮影した写真を印刷し、比較し、気がついたことを話してみる。そうした一連の活動の中で子どもの心が「楽しい」「なぜだろう」「もっと知りたい」と動いたとき、子どもは実体験を通して学んでいます。デジタルメディアの映像だから学びが浅くどまってしまうことは決してないと思います。

## デメリットを少なくする 具体的な対策を

デジタルメディアを使うことで、子どもの興味・関心に応じて、好きなものを、好きなときに、好きなだけ学んだり、楽しんだりできるというメリットを、保護者も十分に理解しています（図4）。その一方で、「眼や健康に悪い」「夢中になり過ぎる」といった心配も、多くの保護者は抱えています。

不安を解消するためには、適切な対策を立てることが必要です。眼や健康への影響を心配しているなら、どのような環境でどれくらいの利用時間

であればよいのか、夢中になり過ぎて気持ちの切り替えができない状態に陥らないようにするにはどうすればよいかなど、具体的な対策を立てれば不安は軽減します。デジタルメディアの利活用についての保護者の不安を軽減するため、専門家の見解やアドバイスを紹介することは、子どもを深く理解し、教育の知見をもつ保育者だからこそできることの1つでしょう（P.21Column 参照）。

デジタルメディアの過度な使用がインターネット依存を引き起こすのではないかと心配する保護者も少なくありません。たしかに時間に関するルールを設けず、1日中スマートフォンで動画を見ているような状態は問題ですが、インターネット依存といえるような状態になってしまう子どもには、デジタルメディアとは別の、例えば生活リズムの大きな乱れや、親子関係の問題などが背景にある場合が多いようです。

図4 デジタルメディアを使用するメリットとデメリット (%)

		幼児	小学生
<b>●メリット</b>			
学びへの好影響	デジタルメディアの特性		
	何度も繰り返して学んだり楽しんだりできる	85.2	84.3
	子どもの都合に合わせて学んだり楽しんだりできる	84.4	85.3
	自宅や好きな場所で授業や講義が受けられる	83.5	84.1
	使えるようになることで将来役立つ	78.3	83.2
	知識が豊かになる	77.8	75.7
非認知的スキル育成	社会のマナーやルールを学べる	49.0	42.3
	集中力がつく	48.4	41.3
	親子でのコミュニケーションが増す	39.6	37.2
	やさしさ、思いやりなどをはぐくむ	30.0	26.1
	友だちと遊べる	34.9	43.6

		幼児	小学生
<b>●デメリット</b>			
	眼や健康に悪い	90.9	91.1
	夢中になり過ぎる	91.0	89.1
	長時間の視聴・使用が続く	87.6	85.4
	大きくなったとき、依存しないか心配	79.1	77.4
	有料サイトや危ないサイトへアクセスする可能性がある	79.5	84.5

※数値は、「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計%  
※それぞれ幼児の上位5項目を掲載

**データ解説** ● デジタルメディアを使うことのメリットとして上位に挙げられている項目は、「何度も繰り返して学んだり楽しんだりできる」「子どもの都合に合わせて学んだり楽しんだりできる」といったデジタルメディアの特性を評価する内容が多い。一方、デメリットについては、心身への悪影響や生活の乱れなど、母親がさまざまな点で心配している様子が見えてくる。



子どもの心の有り様への影響を考えると、子どもとデジタルメディアという1対1の関係だけでなく、子どもとデジタルメディアを取り巻く家庭環境を見ることが大切です。子どもと保護者を包括的に支援する保育者の先生方には、親子関係の中でデジタルメディアがどのような役割を担っているのかという観点ももちながら、保護者が抱えている不安や疑問に耳を傾けていただければと思います。

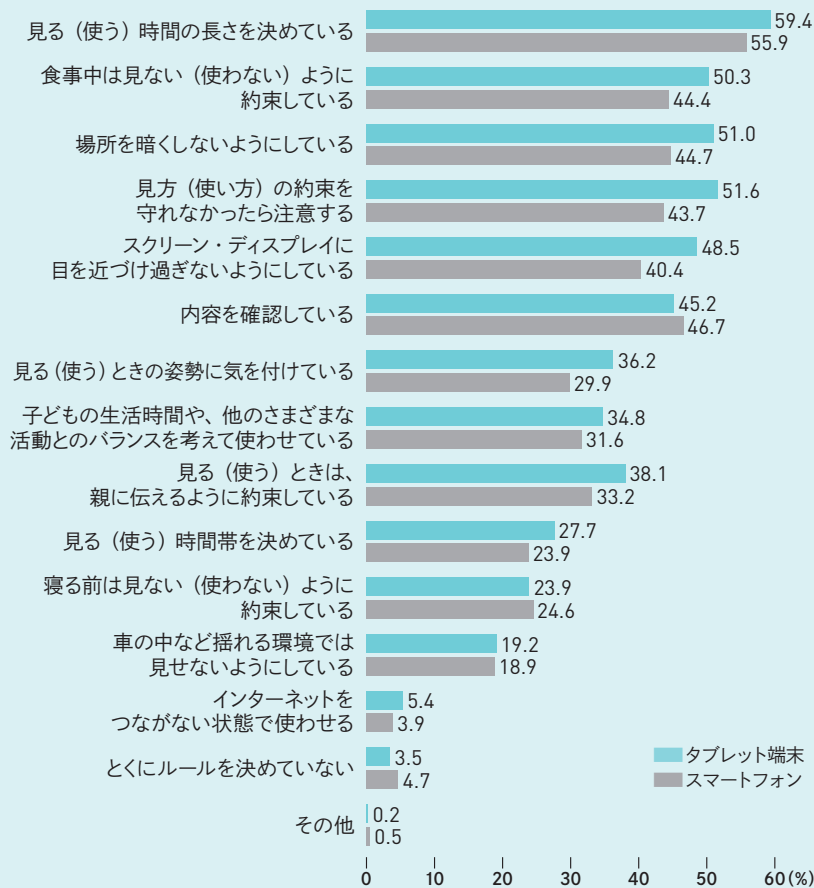
## 保護者自身の使い方が 子どもに影響を与える

今回の調査で浮かび上がった課題の1つに、デ

ジタルメディア使用に関する家庭内のルール整備の遅れがあります(図5)。デジタルメディアは子どもの主体的な学びを促し、世界を大きく広げるものですが、その使用に関してはそれぞれの家庭で、時間や場所、内容などのルールを決めて、それを遵守することが大切です。デジタルメディアに対する保護者の抵抗感は着実に減っていますが(図6)、それに伴う形で家庭内でのルールづくりが進んでいないことを、看過してはいけないと思います。新しいメディアを使わせる前にルールを決めておく。いったん自由に使わせてしまってからルールを導入しても、うまくいかないのです。

ルールづくりと同じくらい大切なのは、保護者自身が子どもにとって手本となるようなデジタル

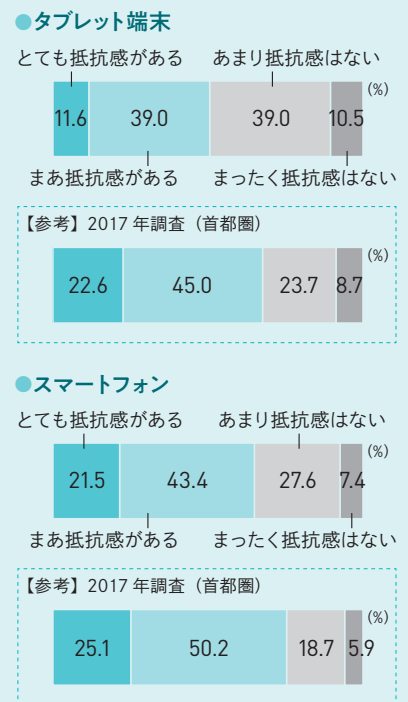
図5 デジタルメディアの使用ルール(幼児)



※各デジタルメディアを使用している人のみ回答

**データ解説** ● 各家庭の具体的なルールは幼児をもつ保護者11人に対するメディア視聴についてのインタビュー調査(2020年10月実施)でも尋ねている。「『この画面が出たら終わりだよ』というように、子どもとあらかじめ約束する」「1日のスケジュール表を作る。テレビを見る時間を守れたら色を塗る」などのように、さまざまなルールが設けられていた。

図6 デジタルメディアに対する母親の抵抗感(幼児)



**データ解説** ● タブレット端末よりもスマートフォンの方が、母親の抵抗感は強い。ただし、2017年の調査結果と比較すると、いずれも抵抗感が下がっている。

## Column

## 子どもとメディアのよりよいつきあいかた

ベネッセ教育総合研究所では、2005年から、さまざまな領域の専門家の先生がたと「親子のメディア研究会」を発足し、子どもの成長・発達を踏まえ、安心・安全にさまざまなメディアを楽しむための工夫について検討し、研究所のウェブサイトで発信してきました。

## メディアと上手につきあうために大切にしたい3つのこと

- 1 映像やデジタルメディアは親子で一緒に楽しみましょう
- 2 番組やアプリは、お子さまの年齢・発達に合った質の良いものを選びましょう
- 3 将来、お子さまが、さまざまなデジタルメディアによって世界を広げられるように、幼いうちから、家族でメディアの使い方を考えて活用する習慣をつけましょう

◎詳しくはベネッセ教育総合研究所サイト「小さな子どもとメディア」をご覧ください！

<https://berd.benesse.jp/jisedaiken/media/>



メディアの使い方をしているかということです。もしも保護者が、スマートフォンを片手に食事をしていたり、人の話を聞きながら操作をしていたりしたら、子どもはまねをするでしょう。また、子どもの前で夜遅くまでタブレット端末を使っていたら「自分も使いたい」となるでしょう。実際、子どものデジタルメディアの使用時間の長さには、保護者自身の使用時間の長さが影響を与えることがわかっています。家庭の中で保護者が節度をもってデジタルメディアを使うことが大切なことも、保護者へ伝えていただきたいと思います。

デジタルメディアに限らず、子どもがルールを自分の価値基準として受け入れていくことは、集団生活を営む力の向上につながります。デジタルメディアのルールを定め、家庭内に新たな秩序をもち込み、それを子どもが守っていくことで、子どもは社会で生きていくために必要な力を身につ

けていくのです。

デジタルメディアは、すでに私たちの生活に欠かせない存在になっています。子どもたちの生活からデジタルメディアを切り離すことは、もはや現実的ではありません。私たち大人には、デジタルメディアのデメリットを可能な限り小さくしながら、メリットをできるだけ大きくしていく工夫が求められていると思います。その意味において、各家庭でのルールづくりとその遵守はとても重要です。

「食育」の重要性はだれでも認めるところですし、できるだけ早いうちから始めた方がよいという点で異議を唱える人はいないでしょう。同様に、デジタルメディアに関する教育も早いうちから行うべきですし、入園時、進級時などに上手に機会を見つけて、継続的に取り組んでいただきたいと思っています。

園の先生方への  
メッセージ

子どもたちが生きていく社会は、デジタルメディアとともに暮らす社会です。すべての子どもたちに、デジタルメディアを上手に使う力が必要です。そして、これからの園には、そうした力を子どもや保護者に伝える役割も求められています。ただ、海外と比べると、日本の幼児教育では、デジタルメディアを保育で上手に活用できる知識やスキルを持った人材は、まだ不足していると感じます。だ

からこそ、園の垣根を越えた連携が必要です。デジタルメディアを活用した保育の実践例、お勧めのコンテンツ、環境整備のノウハウなどをどんどん発信し、互いを高め合うことが重要だと思います。複数の園が協力することで、オンラインの発表会や保育者と保護者の悩み相談会なども実施しやすくなるでしょう。子どもの育ちについてだれよりも詳しい先生方がデジタルメディアを味方につけることで、日本の幼児教育はさらに大きく進化していくと信じています。